

KIDS SMILE LABO JOURNAL

April



育ちのはじまりを感じる春

春、四月。あっという間に四月も終わりに近づきました。新年度が始まり、少しずつ新しい生活のリズムが整ってきた頃かと思えます。おうちでも、日々の変化を感じながら過ごしていらっしゃるのではないのでしょうか。

子どもたちにとっても、この春は大きな一歩の始まりでした。初めてのこと、新しい環境、流れの変化…。そんな毎日の中で、きっと心の中には緊張や不安があったことでしょう。でも今では、表情もぐっとやわらかくなり、それぞれのペースで新しい環境に慣れてきているように感じます。

四月のはじめこそ、雨の日が続きましたが、今では気持ちの良い日差しや風の中で、子どもたちはのびのびと過ごしています。散歩から帰ってきた時に見せる表情や、その日あったことを話してくれる声のトーンから、思いきり遊んできたんだろうなと感じる瞬間がたくさんあります。

春の広場では、自然との出会いがたくさんあります。ちいさな草花、虫たちの動き、季節の香り…。そんな日々の中で、子どもたちの心も少しずつほぐれていくようです。

笑ったり、泣いたり、時には怒ったり。何かに夢中になっていたり、友達と顔を見合わせて笑っていたり。保育者と寄り添って過ごす穏やかな時間も、そのすべてが、「今」の大切な育ちの瞬間です。

これから子どもたちは、この場所で仲間と共に、さまざまなことに出会い、経験し、たくさんの「自分らしさ」を育てていきます。一人ひとりの歩みはそれぞれ違いますが、どの子も、その子らしく伸びていけるよう、私たち保育者も日々、丁寧に寄り添っていきたいと思っています。

お子さまの成長を、保護者の皆さまと一緒に喜び合える日々を、これからも楽しみにしています。

子どもたちから「もりもり」の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。5歳と2歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon Zf。もりもりの生み出す、優しくて愛で溢れる世界は note にて随時更新！子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



「美味しい」が増える給食

Text by Grace Maruyama

KIDS SMILE LABO では、「見ても美味しい、食べても美味しい」をコンセプトに、近隣の農家さんから届く旬の野菜をふんだんに取り入れています。

思わず「美味しそう！」「早く食べたい！」と感じてもらえるように、そして食後は「美味しかった」「また食べたい」と言ってもらえるよう、日々工夫を重ねています。

食べる量や好き嫌い、体調によって毎日同じようにはいかなくても、入園当初よりも「おかわりしたい！」と思える献立が増えてくれたら、とても嬉しく思います。

当園の給食では、苦手な食材を細かくして隠すことはせず、調理法や味付けを工夫することで、「食べてみようかな」と思えるような献立づくりを心がけています。

昨年度から始まった調理実習では、子どもたちの「作りたい」「試してみたい」という気持ちを大切にしながら、調理チームと保育チームが連携し、今年度も楽しい活動を展開していきます。

調理実習も少しずつできることを増やし、回数を重ねてさらに幅を広げられるよう、子どもたちと一緒に考えながら進めていきたいと思っています。

今年度も、子どもたちにとって給食やおやつ時間が「楽しい」「笑顔になれる」ひとときになるよう、心を込めて提供していきます。

KIDS SMILE LABO KITCHEN



instagram にて日々の献立や調理実習の様子を投稿しています！



@kidsmilelabo
KIDS SMILE LABO



@kidsmilelabo
@KIDS_SMILE_LABO



kidsmilelabo.com

Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

こいのぼりがおよぐ恩曾川へ



今年度最初のバス散歩は、「恩曾川こいのぼり散歩」でした。
いつもの遊び場とは違う場所へ行く特別な日を、子どもたちは心待ちにしていました。
当日を迎える前から「やねよ〜りたか〜い」と大きな声で歌ったり、絵本や紙芝居を通してこいのぼりに親しみ、期待を膨らませていました。

当日のバスの車内では、窓の外の景色を眺めながら、「こいのぼり見えるかなあ〜」と楽しみにする声が響きます。

バスを降りると、目の前にたくさんのこいのぼりが！
「青！赤！緑！」「たこみたい！」「くらげみたい！」と、こいのぼりや吹き流しの色や形を見た子どもたちが、思ったことを次々と口にしていました。

河原に到着すると、子どもたちは靴を履き替えると同時に網を手に取り、水しぶきがあがるほど勢いよく川へとかけていきました。

アメンボやエビ、すぐそばを泳ぐ鯉に会い、大興奮です。
じっくり観察したり、水を掛け合ったりしながら、びしょ濡れになることも気にせず夢中で遊びました。

広場では、蝶々を捕まえたり、草花を摘んだり、石段をジャンプして遊んだり、砂穴に川の水を運んだり、それぞれが自然の中で思い思いに遊びを広がっていました。

お昼ごはんは、おうちの方が作ってくれた特別なおにぎり。
袋の中には、自分でリクエストした具材や個数のおにぎりが入っていて、みんな嬉しそうに紹介してくれました。

「こいのぼりを見ながら食べるっていいね」と自然にこぼれた子どもたちの言葉に、心が温かくなります。

口いっぱい頬張り見せた笑顔は、今日一日を物語っていました。

自然の中でたっぷりと体を動かし、たくさんの発見を楽しんだ、春らしい一日となりました。

text by Satomi Hiramoto



19人の個性が輝く兜作り

text by Reiji Akamatsu



子どもたちを守り、健康に育ってほしい。そんな願いを込めて、3〜5歳児の異年齢クラス「みなも」「おおぞら」「だいち」で、新聞紙やクラフト紙を使った兜作りを行いました。

年長児のだいちクラスの子どもたちは、年少児のみなもクラスの子に兜の折り方を教えてくれました。「この指のところまで折るんだよ」と、どうすればわかりやすく伝わるかを考えながら、一生懸命教える姿が印象的でした。手を取り、時には身ぶりを交えて教えるその様子からは、年長児としての頼もしさや自信が感じられました。

兜を折り終えたら、次は飾りつけです。年中児のおおぞらクラスでは、折り紙や小さな段ボールを使って、自分の思い描くイメージを楽しそ

うに形にしていきます。友だちの飾りをヒントに取り入れる子もいて、それぞれの個性が光る、素敵な兜がたくさんできあがりました。
みなもクラスの子どもたちは、飾りつけに加えて切り紙にも挑戦。曲線や細かな切り返しに苦戦しながらも、最後まで集中して取り組み、完成したときにはホッとした笑顔と達成感にあふれていました。

今年度は、「みなも」「おおぞら」「だいち」の19人での新たなスタートとなりました。今回の兜作りは、年長児の自信、年中児の創造力、年少児の集中力、それぞれの輝きが垣間見える製作活動となりました。これからも、一人ひとりの思いや成長に寄り添いながら、自分らしさをのびのびと表現できる活動を取り入れていきたいと思います。

KIDS SMILE LABO KITCHEN からは
かぶとの春巻きが給食に並びました！>>



Nobana

もうのばなさんだから！

進級して幼児さんと同じ部屋で過ごすようになり、お兄さん・お姉さんの仲間入りをしたような気持ちの「のばなさん」。はじめは「あっち（そよかぜさんの部屋）行く！」と言ったり、前担任の名前を呼んだり、新しい環境に不安を感じている様子もありました。それでもこの一ヶ月、「のばなさんになったから、こんなに楽しいことができる！」と、様々なことにチャレンジしながら、期待感と自信を積み重ねてきました。

たとえば調理の日。昨年までは見ていただけだったのが、今年は参加する側になりました。初めての調理の日には、玉ねぎの皮むきを手伝い。その体験から、食べることににより意欲的になっているように感じました。子どもたちの中でも印象的な出来事だったので、帰ってからうちの方に話したり、当日いなかった職員にまで「たまねぎむきむきできたんだよ！」と、目を輝かせながら体験したこと・感じたことを話していました。



また、散歩の際には、昨年まではバギーを使うこともありましたが、進級を機に手をつないで歩くことに挑戦しています。子どもたちなりに進級を受け止め、心境の変化があったことが感じられ、大人が思っている以上に頑張っているのだな、と私自身も身が引き締まる思いです。

子ども同士の関わりでは、まだまだ言葉でうまく気持ちを表現できず、トラブルになってしまいうこともあります。けれども室内で幼児さんたちと一緒に生活する中で、「〇しかったの？」「〇〇って言うのいいんだよ」と、年上の子たちがのばなさん同士のやりとりで紹介してくれることもあり、異年齢での関わりから、どんな言葉を獲得していくことが期待されます。きつとこの一年で、さまざまな体験や人との関わりが、子どもたちにたくさんさんの刺激を与えてくれることでしょう。

これから大きく成長していくのばなさん
がとても楽しみです。

Text by Yumiko Sakai

Soyokaze

見つけたよ！
触ったよ！春の虫

今年度のそよかぜクラスは、新しいお友達が1名仲間入りし、7名でスタートしました！

初めは新しい保育者や環境に緊張気味の子どもたちでしたが、今では保育者が歌をうたったり絵本を読み始めるのと、「なにが楽しいことをしているのかな？」と集まってきてくれたり、朝には「おはよう！」と満面の笑みで駆け寄ってきてくれるようになり、とても嬉しく感じています。

そんなそよかぜクラスの子どもたちは、お散歩が大好き。晴れの日も雨の日もそれぞれ違った遊びができるので、どんな天気でも子どもたちはウキウキしています。

最近は生き物に興味が出てきました。きっかけは、木陰広場でアリの追いかけていたとき。「どこに行くのかな？」「何してるのかな？」と話していると、

アリの巣を発見。「これがアリのおうちだよ」と伝えると、子どもたちは地面に顔を近づけて不思議そうに覗き込んでいました。

アリが巣に入っていく様子を見ると、子どもたちは指や木の枝を穴に差し込んでみたり、アリの動きをじっと観察するようになりました。

その日からアリ以外にも、てんとう虫やちょうちゅうなどいろいろな生き物に関心が広がり、見つけると「あっ！あっ！」と指さして教えてくれたり、自分の手で捕まえようとする姿も見られるようになりました。

まだ優しい力でそっと捕まえるのは難しいですが、これからの経験を通して少しずつ覚えていくことでしょう。

これからも、子どもたちの興味や感じたことに共感しながら、一緒に遊びを楽しんでいきたいと思っています！

Text by Yoko Fujie



Komorebi

ラボへようこそ

今年度は、3名の小さな人たちがラボの仲間になりました。

初めは親御さんと離れると涙を流していましたが、慣らし保育を経て少しずつ安心感を持てるようになり、今では後追いをしたり、目が合うと笑ってくれるまでになりました。

川沿いの広場には毎日のように足を運び、桜を眺めたり、たんぼぼに触れたり、春の草花にたっぷりと親しんでいます。こもれびさんは枯れ葉、石、枝など、そばにあるものに手を伸ばして握ったり、時には味わってみたり（笑）しながら、外の世界を探索中です。

芝生の斜面も一生懸命に登っています。まだまだ小さな身体ですが、その姿には逞しさとパワーが感じられます！

『ラボといえは！』の煮野菜も、豪快に手掴みで食べ、毎日おかわりしています。

「もっと食べたい！」と言わんばかりに机を叩いて要求する姿や、気分じゃない野菜が来ると怒ってみせるなど、さまざまな表現で自分の気持ちを知らせてくれています。

たくさん食べた後のお昼寝の時間では、ぐっすり夢の世界へ...という子もいれば、背中スイッチが発動してなかなか眠れない子もいます。

こうした一人ひとりの姿を丁寧に捉えながら、「どうしようかな？」と頭を悩ませていくことも、保育という仕事の醍醐味だなと感じています。私自身にとっても、とても楽しい新生活です。新しい生活が始まって、早くも一ヶ月。これからどんな一年になっていくのか、子どもたちに寄り添い、その成長をそばで見守っていくことが、今からとても楽しみです。

Text by Miyuki Miyazaki

